

同 志 社 大 学

2011年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2012年4月5日提出

所 属	職 名	氏 名
経済学部	教授	和田喜彦
研 究 題 目	持続可能性評価指標および原子力エネルギー等の管理手法・影響評価 についての研究	
研 究 成 果 の 概 要	<p>2011年3月11日に発生した東日本大地震と大津波に伴い東京電力福島第一原子力発電所において多発過酷事故が発生した。この未曾有の事故をきっかけに原子力発電に対する批判と不安は増大し、事故原因や放射能汚染の実態、そしてその環境影響、健康への影響に対する不安が増幅している。</p> <p>私は、過去数年間、原子力エネルギーの環境影響をどのように環境指標の中に組み込むことができるか等について追及してきた。そのプロセスを進めるなかで、この過酷事故が発生したわけである。よって本年度は、従来の研究課題に加え、福島放射能汚染の現場に実際に赴き、汚染の実態について解明を試みた。また、放射能除染プロジェクトに参加し、除染の効果についても検討を加えた。</p> <p>研究成果は以下において発表した。まず、3. においては、日本の原子力開発の歴史と各個別の原発の歴史を（ゼミの学生諸君の協力を得つつ）年表にまとめた。4. と1. においては除染の効果についての検証結果について報告した。2. については、原発は社会的な関係を分断したり、関係性を異常なものに変化させてしまう側面を持つことを指摘した。</p> <p>本年度、および過去数年間の研究成果から次のことが一般的に言えそうである。すなわち、原子力エネルギーは、持続可能性を実現するために貢献する技術ではなく、むしろ持続可能性の実現を妨害する技術である。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 和田喜彦. 2011年. 「フクシマの現場から」滋賀大学経済学部講演会（11月11日）.2. 和田喜彦. 2011年. 「サステイナビリティの広義の定義：『正しい関係性』の視点からの一考察」エントロピー学会秋の研究集会（口頭発表、10月30日）.3. 和田喜彦. 「付表1：日本の原子力年表」、「付表2 日本の原子力発電所一覧」、エントロピー学会編. 『原発廃炉に向けて』日本評論社. 2011年8月.4. 和田喜彦. 2011年. 「福島市内の個人住宅における放射性物質の除染プロジェクトの効果と課題」エントロピー学会関西セミナー連続講座（口頭発表、6月25日）.	